水戸市台渡里遺跡(茨大運動場地点)　発掘調査現地発表会資料

(所在地：水戸市渡里町前原 2839)

今回の目的

茨城大学の教育・研究活動、今回の発表を通して地域への社会貢献を目的とします。
昨年の調査を受けて、「豪族居館」の堀と正倉の規模を確定する調査を行いました。

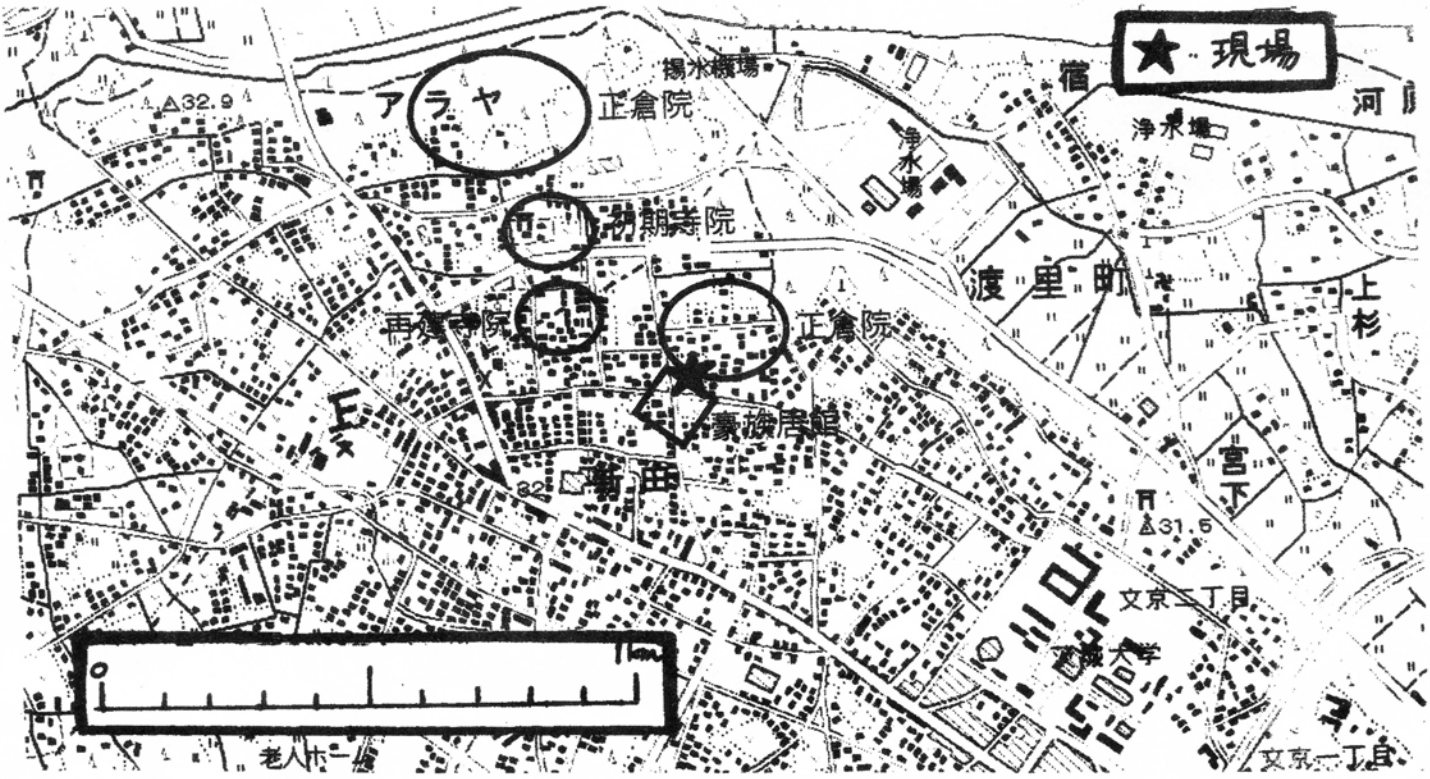
昨年の成果

台渡里遺跡では、７世紀後半に建設された台渡里廃寺と、８世紀以降の那賀郡家を構成する正倉院跡(倉庫群)が隣接していることが知られていました。昨年の茨大運動場地点の調査では、正倉と、それらに先立つ古墳時代の「豪族居館」の堀が存在することを確認し、堀のめぐる範囲について、おおよその規模と形状を推定することができました。

今回の成果

今回の調査では、昨年確認された正倉の基礎（掘込地業）が、東西約 12m・南北約 11m の規模であること、ほぼ正確に東西軸であることが確認されました。正倉の中央付近には、柱の礎石または根石とみられる集石が見つかっています。西側では、基礎の外側に柱穴が存在し、礎石以外の建物も存在した可能性があります。瓦の出土量は少なく、長者山地区の正倉とは異なり、総瓦葺きの倉ではないようです。また、遺物の中には、ふいごの羽口と鉄滓が含まれており、付近に鍛冶遺跡があった可能性があります。

また、昨年確認されていた「豪族居館」の堀については、今回、幅約 4.5mのかなり立派なつくりの箱形堀であることが分かりました。この堀から出土した遺物の中に、丸底の土師器の杯や、暗文を持つ土師器の杯がありました。それらの製作時期から、堀が最終的に埋められたのが８世紀初頭の前後と考えられます。この堀の南西側には、堀と並行して幅約２m、深さ約１m の溝が見つかりました。溝の底には、柱の穴と思われる遺構が確認できました。これらの溝の時期や、柱穴が柵などの施設に当たるかどうかについては、今後もさらに調査をしていきたいと思います。



茨大発掘

堀!!

昨年の調査

昨年の調査では、約2mの深さを持つ堀があることが分かっていました。

今年の調査

昨年の茨大調査区のとなりを発掘したところ、幅約4．5m、底の幅約 2m、ローム面より深さ約2mの箱形の堀であることがわかりました。
また、その堀の南側にも、幅約2m、深さ約 1m の箱形の溝が新たに見つかりました。
底には、柱を立てたと思われる穴が見つかっています。

台渡里遺跡　茨大運動場地点

今年度調査区
礎石？
今年度調査区
今年度調査区
掘込地業（倉庫跡）
昨年度調査区
昨年度調査区
昨年度調査区
昨年度調査区
昨年度調査区
今年度調査区
堀跡
0　20 m

堀の内側に柵があることが分かっています！

水戸市調査区

幅約7m、底幅3．7m
断面が逆台形の堀が水戸市の調査区から見つかりました。

正倉!!

昨年の調査

堀込地業(※)が見つかり、
奈良平安時代（8～10世紀頃）の
那賀郡の役所に伴う正倉(※)であることが分かりました。

今年の調査

昨年に発見された正倉の規模を確認することができました。
東西に約 11.8m、南北に約 11m です。
正倉の礎石と思われるものも発見されています。

ーお願いー

- 試掘抗の端は非常に危険ですので、ロープの内側へは入らないようお願いします。
- 足下にご注意ください。
- 説明係に限らず私たちにお気軽に声をおかけください。

※用語解説は次ページへ

用語解説

※掘込地業（ほりこみじぎょう）：大がかりな建物を造るための基礎工事のこと。工事は、土を入れながら平らに突き固める「版築（はんちく）」と呼ばれる方法をとります。

※正倉院（しょうそういん）：古代の役所が所有した公の倉庫群。税である米を保管するためのものです。

※豪族居館（ごうぞくきょかん）：古墳時代に地域を支配していた有力者の館。多くの豪族居館の内容は謎につつまれています。

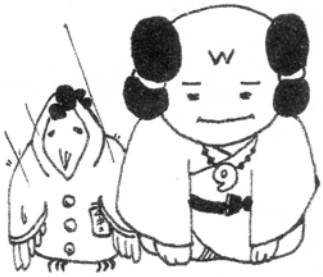
※暗文土器（あんもんどき）：ヘラ磨きによる文様がほどこされた土器。特に７世紀～８世紀中葉に畿内（きない）で盛行しました。この影響を受けて各地で特色のある暗文土器が発達しました。

※ふいごの羽口（はぐち）：鍛冶を行う際に使用する送風道具（ふいご）の先端部分のこと。

※鉄滓（てつさい）：鉄を精製する際に残る不純物のかたまり。

今回調査区から出土した遺物

堀跡出土の杯



発行：茨城大学人文学部考古学研究室
〒310-8512　水戸市文京２丁目１番１号
発行日：2009年9月13日

現地発表会　主催：茨城大学人文学部
共催：水戸市教育委員会文化振興課
茨城大学五浦美術文化研究所

ご来場
ありがとうございました。